

ユネスコ（国連教育科学文化機関）は4月17日、ユネスコ世界ジオパークに伊豆半島ジオパークを含む13地域を新たに認定しました。地質遺産の国際的価値と東伊豆町を含む伊豆半島15市町民の活動が高く評価された結果です。

◆◆ユネスコ世界ジオパークとは？◆◆

では、ジオパークとは、どういう場所なのでしょう？ユネスコによると、ジオパークとは、国際的に地質学的価値のある場所や景観が、①保全②教育③持続可能な開発が一体となった考え方により管理された一筆書きで描ける地理的エリアを指します。伊豆半島ジオパークは海岸から3キロの海域も含んでいます。

ジオパークでは、地球資源の持続的利用、気候変動の影響緩和、自然災害の影響軽減など、社会が直面する重要課題への意識と理解を高めるため、地域のあらゆる自然・文化遺産と関連づけて、地質遺産を活用することが重要です。歴史と現代社会の中で、地域の地質遺産がいかに重要であるかという意識を高めることで、住民一人ひとりに自分たちの地域に対する誇りを与え、一体感を強めます。地域の地質資源を保護しながら、ジオツーリズムを新たな収入源の一つとし、ジオパークの理念を活用した革新的な地元企業や新しい雇用、質の高い研修コースの開発などが期待されます。

ユネスコ世界ジオパークは、国内では9地域目ですが、2015年に世界ジオパークがユネスコのプログラムとなってからは、国内初の認定です。全世界では、38か国140地域が認定されています。



伊豆半島ジオパーク
IZU PENINSULA GEOPARK



シラスタの池

◆◆15市町一丸で取り組んだ結果◆◆

世界認定の一報は4月17日夕方、届きました。伊豆半島ジオパークミュージアム「ジオリア」でその瞬間を待っていたジオガイドや関係者からは一斉に歓声が上がり、なかには涙ぐむ人もいました。翌18日に行われた記念式典では、「伊豆半島の15市町が一丸となって取り組んだ結果、地球の宝物として正式に認められた」（川勝平太静岡県知事）、「伊豆半島が世界レベルのリゾート半島として発展するようにしたい」（菊池豊伊豆半島ジオパーク推進協議会会長＝伊豆市長＝）など、喜びと感謝の声が相次ぎ、くす玉を割って世界ジオパーク誕生を祝いました。



はさみく



記念式典の様子



穴切海岸

◆◆持続可能な伊豆半島へ◆◆

ユネスコ世界ジオパークになったということは、私達の生まれ育った大地が世界的価値を有することを意味します。普段目にしていない山々や海岸の地形が伊豆半島の特異な成り立ちによっていることを知れば、郷土への誇りも高まることでしょう。

世界認定はゴールではありません。4年ごとに再審査があり、活動の評価が下がれば世界認定も取り消されてしまいます。その意味では、今が出発の時です。貴重なジオサイトを保全しつつ、それを教育や地域振興に生かして、世界に誇れる持続可能な伊豆半島をつくり上げていきましょう。

伊豆半島ユネスコ世界ジオパークが誕生

地域の活動・地質価値に高い評価

熱川 地区町民体育大会

白田区が接戦を制し、2年ぶり総合優勝！

5月20日、熱川小学校グラウンドにおいて「熱川地区町民体育大会」が開催されました。会場には、子どもからお年寄りまで数百人が集まり、各地区ともに一歩も譲らない熱戦が繰り広げられた結果、僅差の末に白田区が総合優勝の栄冠を手に入れました。順位は、総合優勝Ⅱ白田区、2位Ⅱ大川区、3位Ⅱ片瀬区、4位Ⅱ奈良本区、5位Ⅱ北川区となりました。

